**Legacy Machine No1 Xia Hang**

ほぼ45時間、休みなく最高の仕事を続け、今では疲れがたまり元気もなくなってきた。一日のはじめには背筋もまっすぐに座っていられたが、疲労をもう無視できず、しだいに猫背になって頭が膝につきそうになる。「ミスター・アップ」は、「ミスター・ダウン」になってしまった。だが、気力が完全になくなってしまう直前、流れ込む元気のエネルギー。ミスター・ダウンの頭は持ち上がって背筋が伸び、生気が蘇った。再びミスター・アップに戻ったのだ。

Legacy Machine No.1 Xia Hang（レガシーマシーン・ナンバー1 シア・ハン）の世界へようこそ。ここは、MB&Fと中国人アーティスト夏航（Xia Hang）のコラボレーションが生み出した、ミスター・アップとミスター・ダウンの世界だ。

Legacy Machine No.1 Xia Hang（LM1 Xia Hang）は、オリジナルのLM1と同様、空中で堂々とゆっくり振動するテン輪や、完全に独立して設定できるデュアルタイム表示など、19世紀の懐中時計にインスパイアされた特徴をすべて備えている。だが、異なる点がただ一つ。才能あふれる中国人彫刻家の夏航の手になる、つややかに磨き上げられたミニチュアのアルミニウム製フィギュアを使ったパワーリザーブだ。ムーブメントが完全に巻き上げられているとき、フィギュアは背筋を伸ばして座り（ミスター・アップ）、巻き上げ残量が少なくなるにつれて次第に前屈みになってゆく（ミスター・ダウン）。

*「この小さなフィギュアを自分では「コンママン」と呼んでいて、2005～2008年に作った作品がその個性的なフォルムの基になっているんだ。コンマは中国語を書くときにも使うんだけど、この「コンママン」は太った男の子を表しているのさ」*夏航

夏航とMB&Fには、共通点が数多くある。MB&Fは、時を刻むキネティックアートの純粋な作品を創り出しているが、あまり真面目にはなりすぎない。夏航も、アートの世界は真面目になりすぎる傾向があると感じる一人だ。遊び心のあるアートを愛し、自身の彫刻作品でも、見る者を楽しませ微笑ませるものを目指している。そしてやはりMB&Fと同じように、夏航も自身の動く彫刻を「マシーン」と呼ぶ。

*「数年前、夏航を初めて紹介してくれたのは、中国人アートコレクターの友人だった。それで、北京のはずれにあるアトリエに訪ねていったんだ。あれは、おもちゃ工場に行った子供のような気分だったよ！」*マクシミリアン・ブッサー

LM1 Xia Hangの動力である内部のムーブメントは、クリエーターたちの輝く才能の結晶だ。LM1のキャリバーは、クロノードのジャン＝フランソワ・モジョンとそのチームが開発。世界初の垂直パワーリザーブを搭載しているほか、分にいたるまで完全に独立して設定できるデュアルタイム表示を実現した。また、有名な独立時計師カリ・ヴティライネンは美しいデザインを手がけ、伝統にならいつつ最高の仕上げを施している。

Legacy Machine No.1は、マクシミリアン・ブッサーの想像の世界から誕生した。「1967年ではなく、1867年に生まれていたら何が起こっていただろう？1900年代初頭には最初の腕時計が登場したから、手首につける三次元マシーンを創りたいと僕は思うだろう。でもその頃は、インスピレーションの基になる「グレンダイザー」も「スター・ウォーズ」も、戦闘機もない。その代わり、懐中時計やエッフェル塔はあるし、ジュール・ヴェルヌもいる。それなら、僕が創る1911年のマシーンはどんな姿をしているだろう？きっと形は丸く、三次元を取り入れていたはずだ。そうして僕の出した答えが、Legacy Machine No.1だったんだ。」

限定エディションのLegacy Machine No.1 Xia Hangには、レッドゴールドとホワイトゴールドのモデルがある（各12本）。それぞれのマシーンには、夏航のサインが入ったステンレススチール製の彫刻1対（大サイズのミスター・アップとミスター・ダウン）が同梱されている。**Legacy Machine No.1 Xia Hangの詳細**

**インスピレーションと実現：**18世紀と19世紀の懐中時計に対してマクシミリアン・ブッサーが抱く愛情は、今に始まったことではない。今日見る時計の複雑な機構は、事実上すべてがその時代に考案されただけではなく、洗練されたコンピュータープログラムを使わずに紙とペンだけで生み出された。そして、今日の標準から考えると非常に未発達の電気を使わない機械を用いて、極めて高精度の部品が製作された上に、今日ですら達成するのが困難な、驚くほど高いレベルの仕上げや組み立て、調整が行われていた。そして、現在の腕時計に比べるとサイズが大ぶりなため、美しいフォルムのブリッジやプレートが整然と並んだムーブメントを持っている。

MB&Fの未来的なHorological Machine（オロロジカルマシーン）は、伝統的な時計学の粋を集めた結晶だが、ブッサーはその豊かな伝統にさらなるオマージュを捧げたいと考えていた。もし彼が1967年ではなく、その100年前の1867年にこの世に生を受けていれば、彼自身が製作していたかもしれない時計に思いを馳せながら。悠然と振動する大ぶりなテンプ、ドーム型の文字盤、伝統的なブリッジデザイン、昔ながらの精密仕上げ。その夢は、極めて現代的でありながら伝統のエレガンスを湛え、Legacy Machine No.1となってここに実を結んだ。

**機構：** LM1の精巧な三次元ムーブメントは、マクシミリアン・ブッサーのスケッチを基にして、スイスのル・ロックルに拠点を構えるクロノードのジャン＝フランソワ・モジョンとそのチームが、MB&Fのために開発したものだ。あらゆる機械式腕時計のムーブメントにおいて、心臓部と言えるのがテン輪とゼンマイであり、計時の精度を調節する役割を担っている。ブッサーははるか以前から、現代で一般的な毎時28,800振動に比べ、毎時18,000振動でゆっくり振動する、アンティークの懐中時計が持つ大ぶりなテン輪に魅了されていた。当然ながら、それを原点としてブッサーのイマジネーションは広がっていった。だが、ブッサーの手になる徹底的な伝統のリメイクには、誰もが目を見張るだろう。ムーブメントの裏側という従来の見えない位置から、テン輪を最前面に移動し、ムーブメントはおろか文字盤からも悠然と浮かせたのだ。

Legacy Machine No.1の調整機構がある位置は、アバンギャルドな趣を醸し出しているかもしれないが、そこには「伝統」も紛れもなく保たれている。直径14mmの大きなテン輪をはじめ、MB&Fのために開発された調整ねじ、ブレゲオーバーコイルを使ったヒゲゼンマイ、可動式のスタッドホルダーがそれだ。

LM1のムーブメントで特筆すべきもう1つの点は、2つのタイムゾーンを完全に独立して設定できる機能だ。大部分のデュアルタイムムーブメントでは、独立して設定できるのは1時間単位に、またまれなケースでも30分単位に限られている。一方、Legacy Machine No.1では、各文字盤で時と分の両方を自由に設定することができる。

LM1 Xia Hangの垂直パワーリザーブ表示は、セラミック製ベアリングを使った超扁平ディファレンシャルギアが駆動しており、複雑な機構のスリム化、そしてメカニズムの堅牢化や耐摩耗性の向上が図られている。

**「小さなフィギュア」によるパワーリザーブ表示：** LM1の複雑なパワーリザーブ機構により、夏航のコンママンは、巻き上げ残量が少なくなり前屈みになった状態から、完全に巻き上げられ背筋を伸ばして座った状態まで、シームレスに変化する。はじめに夏航はフルサイズの彫刻を制作し、それをMB&Fがわずか4mm高にスケールダウンして、必要な「関節」を付け加えた。「ミスター・アップ」（巻き上げられたときのパワーリザーブ表示）の頭や肩、背中、胸には隠しヒンジが取り付けられており、疲れてくるにしたがって水平に曲がっていって、「ミスター・ダウン」に変わる。この微小機械の彫刻は、必要な動力を極力減らすため、アルミニウムで制作。夏航のオリジナルコンセプトに忠実に従いながら、極めてつややかに磨き上げられた小さなフィギュアは、光と見る者の目をとらえる。

**文字盤と表示：** 2つの文字盤の調速は、同一のレギュレーター（テンプとエスケープメント）が行っているため、一度設定すれば2つの時刻が完全に同期しつづける。どちらの文字盤でも、それぞれの竜頭を使って好きな時と分に設定が可能だ。

宙に浮いているテンプの三次元デザインを引き立てるのが、ムーブメントの上に浮かぶ、ブルーゴールドに輝く針を持った白いデュアル文字盤だ。文字盤はゆるやかなドーム型を描き、「ストレッチトラッカー」により半透明の高い光沢を放つ。このストレッチトラッカーとは、ラッカーを幾重にも塗って加熱し、文字盤の表面全体にしっかりと広がる（ストレッチする）ようにした処理のことだ。

そして、文字盤の純粋な美しさと伝統的なローマ数字を引き立てるべく、底面の洗練された固定部分には目障りなねじを一切使っていない。各文字盤の外周には洗練されたゴールドをあしらい、時代を越えたクラシシズムを優雅に主張している。

**精密仕上げと史実に対する忠実性：** Legacy Machine No.1のムーブメントの型や仕上げにおいて、歴史的な正確性を実現する責任を担ったのは、有名な熟練時計師カリ・ヴティライネンだ。そもそも、テンプが空中に浮いたこのような斬新なデザインでは、その仕事も容易ではなかった。

ムーブメントプレート表面（文字盤側）に刻まれた繊細なサンレイ模様は、ある角度でわずかに視線を捉えるが、2つの白い文字盤や浮き上がったテンプ、垂直パワーリザーブから気を逸らさせることはない。そしてヴティライネンは、ムーブメントの背面から見えるブリッジとプレートのスタイルや仕上げで、歴史的な忠実さを見事に再現した。エレガントにカーブしたブリッジのフォルム、そしてブリッジ間やブリッジとケース間に空けられた伝統的な広い空間がそれだ。

ムーブメントの背面では、つややかに磨き上げられたビス留めゴールドシャトンに輝く大粒のルビーが、官能的なカーブを描いたブリッジとクロスするコート・ド・ジュネーブ仕上げと、絶妙なコントラストをなして目を引きつける。このルビーのベアリングは、アンティークの高級懐中時計のムーブメントで見られる、大粒の宝石をルーツとしている。だが実用性も兼ね備えており、大ぶりのカナを支えつつより多くの潤滑油を保持する役割を果たしながら、摩耗の低減と長寿命化を図っている。

**同梱されるミスター・アップとミスター・ダウンの彫刻：** 夏航自らのアイデアにより、24本のLM1 Xia Hang（レッドゴールドとホワイトゴールド各12本）には、磨き上げられたステンレススチール製のミスター・アップとミスター・ダウンが、作者のサインの入ったフルサイズ（高さ約15cm）の彫刻となって同梱されている。

*「初めて（次回もあることを祈ろう）、MB&F M.A.D. Galleryのアーティスト（夏航）とMB&Fの腕時計（LM1）がコラボレートして、Legacy Machine No.1 Xia Hangは誕生した。ジュネーブのM.A.D. Galleryで、最高のアーティストたちのキュレーションを通じて、MB&Fのマシーンを共同で創り出せる可能性が見えてきた」*－マクシミリアン・ブッサー

**経歴－夏航**

夏航は、1978年に中国遼寧省瀋陽市で生まれた。わずか10歳のときに絵を描きはじめ、1997年に芸術大学に入学。2002年、中国の魯迅美術学院を卒業して美術学士号を取得した。

卒業制作作品は、鏡面仕上げのステンレススチールで作った、コンマの形をした人間の集団だった。これが、Legacy Machine No.1のパワーリザーブ表示に採用された、オリジナリティあふれるフィギュアの原型だ。その後、中国の中央美術学院彫刻系も卒業し、美術修士号を取得している。

彫刻を始めた当時から、夏航はスチールに愛着を覚え、その強度と高い光沢に魅了されてきた。その理由をこう説明する。*「金属はおもしろいとずっと思ってきたよ。輝きや耐久性に惹かれているのかもしれないね。金属は石や木材よりずっと強いのに、とても薄く延ばすこともできる。いろいろな形に姿を変えるっていう点が、人間の特質と似ていると思うんだ。それが、金属で作品を作っている訳だよ。」*

夏航は、自身の彫刻をおもちゃのようなものだと考えてほしいと言っている。作品に人々が触れ、遊んでもらうことが希望なのだ。その信条をよく表しているのが、2008年に開いた展覧会のタイトル「手を~~触れないで~~ください」だ。「触れないで」には、取り消し線が引かれている。夏航の創造物はエイリアンのように見えるかもしれないが、自身では子供だと感じている。太った赤ん坊たちだと。

*「初めてマックスに会ったとき、手首に巻いていたHM3を見て、僕はその遊び心いっぱいの彫刻性が気に入ったんだ。マックスのおかげで、腕時計もとてもクリエイティブにできるんだって学んだ。同じようなセンスを持つアーティストを探すマックスの情熱は尊敬しているし、ジュネーブのMB&F M.A.D. Galleryは、好きなアートギャラリーの1つだよ。いつかマックスの腕時計を収集できればいいなと思っている。MB&Fのメカニカル作品は最高だしね。MB&Fとコラボレートできて、本当によかった。MB&Fのマシーンからはインスピレーションをもらえるよ。」*夏航

**Legacy Machine No.1 Xia Hangの仕様**

Legacy Machine No.1 Xia Hangには、レッドゴールド（ルテニウムのトッププレート）とホワイトゴールド（ブルーのトッププレート）の、限定エディション2種類を各12本用意した。

それぞれのLM1 Xia Hangには、夏航のサインが入ったステンレススチール製の彫刻1対（ミスター・アップとミスター・ダウン）が同梱されている。

**機構：**

三次元オロロジカルムーブメント（クロノードのジャン＝フランソワ・モジョンがMB&F専用に開発、仕上げ仕様はカリ・ヴティライネンが担当）

手動巻き上げ、単一の主ゼンマイ香箱

パワーリザーブ表示：中国人アーティストの夏航がデザインした小さなフィギュア

作動時間： 45時間

テン輪：ムーブメントと文字盤から浮き上がった、カスタムメイドの14mmテン輪（伝統的な調整ねじ4個付き）

ヒゲゼンマイ：伝統的なブレゲヒゲ（可動式スタッドホルダーで固定）

テンプ振動数： 毎時18,000振動／2.5Hz

部品数： 274個

宝石数： 23石

シャトン：ゴールドシャトン（研磨した皿穴付き）

精密仕上げ：全体で19世紀のスタイルを踏襲した最高級の手仕上げ、傾斜加工を施した内部の縁（手作業）、研磨した縁、コート・ド・ジュネーブ仕上げ、手彫り文字

**機能：**

時と分、2つの文字盤で完全に独立したデュアルタイム表示、アルミニウム製の磨き上げられた小さなフィギュアによる独特の垂直パワーリザーブ

8時の位置にある左の竜頭は、左の文字盤で時刻を設定。4時の位置にある右の竜頭は、右の文字盤の時刻設定と巻き上げ用。

**ケース：**

18金レッドゴールドまたは18金ホワイトゴールド

寸法： 44mm（横）×16mm（高さ）

部品数： 65個

**サファイアクリスタル：**

表面は高いドーム型のサファイアクリスタル、裏面はサファイアクリスタル、両面とも反射防止コーティング済み

**バンドとバックル：**

手縫いのアリゲーターバンド（黒または茶）、ケースにマッチするゴールドのタングバックル

**Legacy Machine No.1 Xia Hangを創った人々**

*コンセプト：* マクシミリアン・ブッサー／MB&F

*製品デザイン：* エリック・ジルー／エリック・ジルー・デザイン・スタジオ

*パワーリザーブのフィギュアアーティスト：* 夏航

*技術・製造管理：* セルジュ・クリクノフ／MB&F

*ムーブメント開発：* ジャン＝フランソワ・モジョン／クロノード

*ムーブメントデザインと仕上げ仕様：* カリ・ヴティライネン

*研究開発：* ギヨーム・テヴナン／MB&F

*ホイール：* ジャン＝マルク・ナヴァル／ルアージュSA

*テン輪ブリッジ：* バンジャマン・シニュード／AMECAP

*テン輪：* ヤン・ル・マルトレ／µdec

*パワーリザーブのフィギュア：* セバスチャン・ケラー、アレクサンドル・ジレ／ミューテック

*プレートとブリッジ：* ロドリゲ・ボーム／ダマテック

*ムーブメント彫金：* エディ・ジャケ、シルヴァン・ベテックス／グリプト

*ムーブメント部品手仕上げ：* ジャック＝アドリアン・ロシャ／C-Lロシャ

*ムーブメント組み立て：* ディディエ・デュマ、ジョルジュ・ヴェジー、アンヌ・ギテ、エマニュエル・メートル／MB&F

*ケース：* ベルトラン・ジュネ、ドミニク・メニエ／G&Fシャトラン

*バックル：* エルバS.A.

*文字盤：* フランソワ・ベルナール、ドゥニ・パレル／ナテベール

*針：* ピエール・シリエ、イザベル・シリエ、フェリックス・セレッタ／フィドリー

*ガラス：* マルティン・シュテットラー／シュテットラー

*バンド：* オリヴィエ・プルノー／カミーユ・フォルネ

*化粧箱：* オリヴィエ・ベルトン／ATSデベロップマン

*製造物流：* ダヴィド・ラミー／MB&F

*マーケティング・広報：* シャリス・ヤディギャログル、ヴィルジニー／MB&F

*M.A.D. Gallery：* エルヴェ・エスティエンヌ／MB&F

*セールス：* ルイ・アンドレ、パトリシア・デュヴィラール／MB&F

*グラフィックデザイン：*ダミアン・セドゥ／MB&F

*製品写真：* マーテン・ファン・デル・エンデ

*人物写真：* レジ・ゴレ／フェデラル

*ウェブサイト：* ステファン・バレ、ギヨーム・シュミッツ、ビクトール・ロドリゲス／スモー・インタラクティブ

*テキスト：* イアン・スケラーン、スティーヴン・ロジャース／underthedial

**MB&F－コンセプトラボの誕生**

マクシミリアン・ブッサーが一流腕時計ブランドを経営していた15年間、何よりも喜びと個人としての充足感を感じたのは、才気あふれる独立時計師との協同プロジェクトでした。やがて、自身の理想が形をなしてゆきます。それは、敬意を抱かせ、共に仕事をしたいと思わせるような才能あるエキスパートと協力して、先鋭的なコンセプトの腕時計を小ロットでデザイン・製作する専門の会社を作ること。そしてブッサーの中の企業家精神が、そのアイデアを現実のものにしました。

MB&Fは腕時計メーカーではなく、アートとマイクロエンジニアリングのコンセプトラボであり、独立した時計のエキスパートたちを毎年集めて、先鋭的なHorological Machine（オロロジカルマシーン）をデザイン・製作しています。伝統の足かせとなる部分は排除しながら伝統を尊重することで、MB&Fは伝統と高品質の時計製造と最新鋭のテクノロジー、そしてアバンギャルドな三次元スカルプチャーを融合するきっかけとしての役割を担っています。

2007年、MB&Fは最初のHorological Machine（オロロジカルマシーン）を発表。その彫刻のような三次元ケースと美を追究して仕上げられた機構は、特異とも言えるその後の同社マシーンの基準となった。それは、時刻を告げるためだけのマシーンではなく、自らが時を知るマシーンの誕生だった。続いて2011年には、丸いケースのLegacy Machine（レガシーマシーン）コレクションを世に送り出した。MB&Fの視点から、より伝統に傾倒した作品であり、現代的なオブジェを創り出す上で、時計史上の偉大なイノベーターたちが生み出した複雑な機構をリメイクした、19世紀の優れた時計技術へのオマージュである。MB&Fでは毎年、斬新なHorological Machineと、時計史からインスピレーションを受けたLegacy Machineを交互に発表している。

**経歴－マクシミリアン・ブッサー**

イタリアのミラノで生まれたマクシミリアン・ブッサーは、幼くしてスイスのローザンヌに移り、そこで若き日々を過ごしました。スイス外交官だった父親がムンバイでインド人の母親と出会い、誕生したブッサー。多文化の環境と家庭の中で成長し、人生と仕事に対する多文化的な広い視野を身につけました。

2005年、38歳のブッサーは、世界初のオロロジカルコンセプトブランドを設立。それがMB&F（マクシミリアン・ブッサー＆フレンズ）であり、現在はセルジュ・クリクノフとともに経営しています。ブッサーがMB&Fにかける夢は、共に仕事をしたいと思わせる人々を集めた最高にクリエイティブな小集団で、先鋭的なオロロジカルコンセプトを実現する自身のブランドに育て上げることです。

マクシミリアン・ブッサーの強みは、その企業家精神です。1998年、31歳の若さで、ジュネーブのハリー・ウィンストン・レア・タイムピーシーズの最高経営責任者に抜擢。それから7年間で、戦略や製品、マーケティング、世界販売を展開する一方、デザインと研究開発、製造を社内で統合し、同社を評判高い一流高級時計ブランドに成長させました。その結果、総売上高が900%増加し、極めて競争の激しいこの市場でハリー・ウィンストンをトップクラスにまで押し上げたのです。

マクシミリアン・ブッサーの高級時計に対する愛情は、初めての勤務先であるジャガー・ルクルトで育まれました。経営上層部の一員を7年間務めた1990年代、ジャガー・ルクルトは存在感を増すとともに、その総売上高を10倍に伸ばしました。ブッサーはジャガー・ルクルトで、製品管理・開発からヨーロッパ担当セールス・マーケティングに至る幅広い役割を担いました。

ブッサーは、1991年にスイス連邦工科大学ローザンヌ校を卒業し、マイクロエンジニアリングの修士号を取得しています。